

きつちよむ はなし
吉四六さんの話
ふね かね
～舟のお金～





朗読音声のダウンロード
Audio download

★読む前に Before you read

《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む



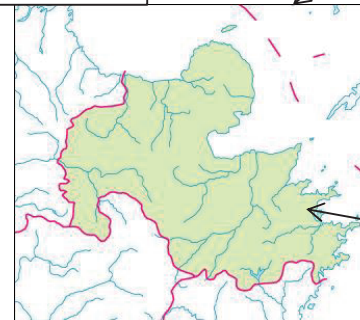
《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.



おおいたけん
大分県



のつまち
野津町

むかし おおいたけん の つ まち いま おおいたけんうす き し
昔、大分県の野津町（今の県臼杵市
の つ まち きつちよむ おとこ
野津町）に、吉四六さんという男がいまし
た。

きつちよむ あたま
吉四六さんは、頭がよくて、いつもおも
しろい はなし をしていました。その はなし にみんな
が わら ました。みんなは たの しくておもしろい
きつちよむ だいす
吉四六さんが大好きでした。



ある日、ひ きつちよむ ふね きやく ま
ある日、吉四六さんが舟のそばで客を待つ
ていると、たび している さむらい がやってきて、
き
聞きました。

かわ む
「川の向こうまでいくらだ？」



かたみち もん
「片道、8文です」

* もん むかし かね もん えん
*「文」は昔のお金です。1文は25円ぐらいです。

もん たか もん
「8文は高い。6文にしろ。」



さむらい かたな も
侍 は刀 を持って
いて、つよ そうな ひと
でした。

きつちよむ すこ かんが さむらい
吉四六さんは、少し 考えました。そして 侍
から もん もらって、しゅっぱつ
しました。
さむらい こわ かお いそ い
侍 は怖い顔で 「急げ」と言いました。



もうすぐ着きます。そのとき、きつちよむ
は、ふね と 止めて 言いました。

「ここまでが6文です。」

「？」

「ここから向こうまで行くのに、あと2文
た 足りません。」

「向こうまで行けないなら、元の場所に戻れ。」

「はい、わかりました。」



吉四六さんは、元の場所に戻りました。

「ここまで戻ってきたのですから、帰りの

片道6文をお願いします。」



ちょしや すみだ たまき
著者 住田 環

おおいたはつ よ かい かいいん
(大分発わくわく読みものをつくる会 会員)

きょうりよく たげんごたどく
協力 NP0多言語多読 (<https://tadoku.org>)

イラスト かとう もりひろ
加藤 守弘

さんこう しりょう
参考資料

こぐれまさお
木暮正夫 (1989) 「ふねのわたしちゃん」, 『これはナルホド

きつちよむ 話』(日本のおばけ 話・わらい 話 9), pp.9-13,

いわさきしよてん
岩崎書店

ほん なか に じ しょう きん
この本の中のイラストの二次使用を禁じます。



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスの下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>